田川市立病院 NEWS LETTER

ニュースレター VOL.35

特集 コロナ渦の医療 4

◆ 基本理念 ◆

病む人に寄り添い、
安全・安心な医療を提供し、
「選ばれる病院」を創ります

- 患者に選ばれる
- かかりつけ医に選ばれる
- 働きたい職場として選ばれる

外来（問診票聞き取り）

感染症病棟

共に前へ。

変化する新型コロナに向き合う

フェイスシールド作成

一般病棟

新型コロナウイルス感染症患者さんの入院
～その時、病院では～

田川市立病院は、令和2年3月から多くの新型コロナ患者さんの入院を受け入れてきました。患者さんやそのご家族は、感染してしまったこと・誰かにうつしていないだろうか・もっと症状が悪くなるのではないかなど多くの不安を抱えています。そのような中で、患者さんの不安を少しでも減らすことができるよう、職員が一丸となって診療や看護を行っています。

陽性判明

療養環境を保健所と患者さんで相談します（病状による）
・自宅療養　・ホテル療養
・医療機関への入院など

患者さんが病院に到着

入院の場合

福岡県新型コロナ感染症調整本部や保健所から当院に受入要請があります。その後、当院COVID-19対策チームを中心に院内で受入準備を開始します。

↓

感染症病床の準備、検査の準備、食事の準備等各関係部署に連絡し受入体制を整えます。

↓

受入時間に合わせて防護具を身につけます。

専用出入口から感染症病棟に案内します。
※一般患者さんと接することはありません

病棟から患者さんを迎えに行く様子。

患者さんの状況に合わせて、ストレッチャーや酸素を準備して向かいます。

感染対応では、課題解決のために院内での情報共有が重要です。日々状況が変わるため、流行期には毎日（それ以外は週に２回）、幹部等による「感染症対策会議」で随時課題を検討して、全職員に周知するなど病院全体で情報を共有し解決しています。

症状の重さの分け方

新型コロナウイルス感染症の症状は、軽症、中等症（Ⅰ・Ⅱ）、重症に分けられます。

軽　　症	肺炎の所見なし、酸素飽和度96％以上
中等症Ⅰ	呼吸困難、肺炎の所見、酸素飽和度93～96％
中等症Ⅱ	呼吸不全、酸素投与が必要、酸素飽和度93％以下
重　　症	集中治療室での治療や人工呼吸器が必要

※症状には個人差があり、息苦しくないのに身体状態が悪い場合もあります。動脈血酸素飽和度（SpO2）を計測するパルスオキシメーターで確認することは有効です。

県内の医療機関で連携し、病状に合わせて入院する医療機関が決まります。

退　　院

退院基準を満たしているか保健所との協議により、退院勧告となります。

感染症病棟に入院

検査後、入院して必要な酸素投与や投薬などの治療を開始します。

当院のCOVID-19対策チームを中心に、感染症病棟のスタッフと共に診療・看護を行います。

当院COVID-19対策チーム

感染症科の医師、呼吸器内科医師、総合診療科医師、小児科医師、感染管理認定看護師によるチームです。

※患者さんが透析患者さんや妊婦さんの場合などは、各診療科の医師と連携して診療を行います。また、他医療機関とも連絡を取り合い、密に連携しています。（令和3年9月現在）

必要な検査(CT検査、レントゲン検査など)を行い、状態を確認します。

CT検査

肺の状態を確認します。

福岡県新型コロナウイルス感染症調整本部や福岡県保健福祉事務所、福岡県内の医療機関、田川市など各々と定期的に会議し、情報を共有し連携しています。

感染症病棟

専属スタッフが患者さんの全身状態を随時確認しており、体調の変化を見逃さないようにしています。

患者さんは多くの不安を抱えている中、病室から出ることができず閉鎖的な環境で過ごすことになります。さらに、感染対策のための様々な制約もあります。そんな状況でもその対応に理解していただき、ご協力いただいていることに感謝しています。

患者さんと接するスタッフも日々多くの葛藤を抱えていますが、みなさんの協力と患者さんの退院されていく姿が励みになっています。COVID-19感染症センターの専属スタッフは、感染症患者さんの受け入れ当初から使命をもって従事しており、感染対策を遵守しながら患者さんに寄り添い、様々な不安を少しでも減らせるよう努めています。

感染対策にご協力いただきありがとうございます

外来での感染対策

現在も病院の出入口を一本化し、来院された方全員に入口での問診や来院目的等の確認、手指消毒・マスクの着用の徹底をお願いしています。

外来での問診票には、ワクチン接種の有無（回数）も追加し、確認させていただいています。

お手数おかけしておりますが、当院の感染対策にご協力いただきありがとうございます。

正面玄関

救急患者対応の向上

救急外来では、感染対策のため患者さんごとに防護具を着替え、消毒作業を行うため、時間がかかりお待ちいただいたり、お断りしたりすることも多くありました。

そこで、令和３年10月に少しでも早く患者さんに対応できるよう、また、受け入れられるよう救急外来の拡張工事を行いました。感染対策はもちろん、一刻も早く救急患者さんに対応できるよう努めています。

救急外来

感染症指定医療機関である当院では今回紹介させていただいたCOVID-19チームを中心に昨年３月末から今年９月末までの約１年半の間に393人の新型コロナウイルス感染症患者さんの入院治療に当たってきました。感染症の流行には波があり、新規の入院患者さんの数は今年に入ってからは、月に10～40数名と大きく変動しています。

これまでで最大の波であった第５波は９月中旬より収束に向かっており、その収束の過程は急速です。これはワクチン接種による集団免疫の獲得が進んだことが一因と考えられています。実際日本で２回目のワクチン接種を終えた人の割合は６割を超えており、10月中に７割を超える見通しとなっています。集団免疫の獲得にはワクチン未接種の人の感染率を下げる効果もあります。今後年内にも第６波が来ると予測されていますが、集団免疫が獲得されると今後その波は次第に小さく、短くなり数年のうちに「収束」が「終息」に向かうことが期待されます。

免疫には細胞性免疫と液性免疫があり、ワクチン接種によって得られる免疫のうち重症感染予防効果につながる細胞性免疫は長期間維持されますが、感染・発症予防効果のある液性免疫（中和抗体）は時間とともに減少します。アメリカやフランスでは高齢者や重症化リスクの高い人を対象に始まっている３回目の接種について、日本でも２回目の接種から８か月以上経過した時点で行うことが検討されています。すでにワクチン接種を終えられた方も来年春には３回目の接種を受けていただくことになりそうです。

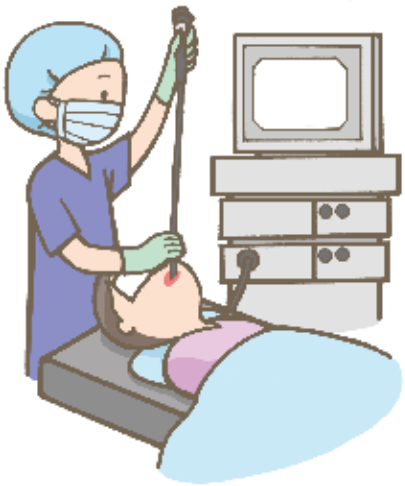
また、そろそろインフルエンザワクチン接種の時期ですが、アメリカでは新型コロナとインフルエンザのワクチンを同時に接種できるようですが、日本では今のところ新型コロナワクチンを接種する際、他のワクチンと前後13日以上の間隔を空ける必要がありますので注意が必要です。

令和３年10月13日　病院長　**松隈　哲人**

呼吸器内科

専門診療・気管支鏡診療が可能に

令和3年4月に常勤医師2人が着任し、当院でも呼吸器専門診療が可能となりました。現時点では立ち上げ段階にあるため、外来は再診（火曜午前）初診（木曜午前）の週2回となっています。



■呼吸器内科の役割

呼吸器内科では、肺炎・肺膿瘍、胸膜炎・膿胸といった呼吸器感染症に加えて、気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患（COPD）、間質性肺炎、肺悪性腫瘍など多岐に渡ります。

気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）では、吸入療法や難治性喘息に対する抗体製剤の導入、慢性呼吸不全に対する専門的なアプローチを行い、地域医療に貢献していきます。

特に外来診療では、一般診療で問題となる「遷延性／慢性咳嗽」や「喀痰」などにも対応しています。

田川地域は、高齢化が進んでおり、この地域の高齢者医療は非常に重要です。common diseases（一般的な病気）である「誤嚥性肺炎」に対しては、フレイルの改善・予防にも取り組み、肺炎の再発予防に取り組んでいきます。

■気管支鏡診療を開始

これまで常勤医不在だったために当院では10年以上行われていなかった、気管支鏡診療を「再始動」しました。気管支鏡検査を行うことにより、肺癌や間質性肺炎の診断や治療が今以上に可能となります。

主な対象疾患

気管支喘息（難治性喘息を含めて）、慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの他、より専門性の高い間質性肺炎、職業性肺疾患（じん肺、石綿関連疾患他）の診療を行っています。

また、呼吸器感染症の診断および治療遷延性・慢性咳嗽の診断および治療や肺癌を含めた肺結節に対する（気管支鏡検査を含めた）診断なども行います。

スタッフ

川波　敏則 部長（平成13年卒）

［主な所属学会及び取得資格］
日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医
日本呼吸器学会専門医・指導医
日本感染症学会専門医・指導医
日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医
日本結核・非結核性抗酸菌症学会指導医
日本肺癌学会、JMECC インストラクター

赤池　幸歌 医員（平成28年卒）

［主な所属学会及び取得資格］
日本内科学会
日本呼吸器学会
日本呼吸器内視鏡学会
日本肺癌学会

田川地域での緩和ケア

令和2年に着任した緩和ケア内科の小早川晶医師の取組により、緩和ケアの診療や教育等が充実しました。現在、緩和ケア病棟の開設に向け準備を進めており、令和4年度中での開設を目指しています。

■緩和ケア病棟

緩和ケア病棟では、がんなどの進行に伴う体や心のつらさに対する専門的なケアを行います。つらさを緩和して、できる限り普段の生活を送れることを目標としています。そのため、一般病棟とは異なり、日常生活に近い暮らしができるように作られます。

■田川地域の緩和ケア

現在、田川地域では緩和ケア外来や在宅緩和ケアを受けることはできますが、緩和ケア病棟はありません。

田川地域の方が、遠方に行かずに田川の地で医療や看護などのケアが受けられるように、緩和ケア病棟の開設に向けて取り組んでいます。

■職員等への教育

病棟の開設に向け、はじめて緩和ケアに関わるスタッフのために、小早川副院長による「緩和ケア多職種勉強会」（毎週）を行っています。先生の長年の経験から、具体的な話を聞き、職員の知識や技術が向上しています。令和3年7月からは、オンラインで外部の方の参加も可能となりました。興味のある方は当院ホームページをご覧ください。

また、地域の医療機関や介護施設等の方を対象に「緩和ケア地域連携研修会」を年に5回程開催しています。田川地域全体の緩和ケアに対する知識や理解を深めるため、小早川副院長をはじめ、当院の緩和ケアチームが取り組んでいます。

■当院緩和ケアチーム

がんが発症し、検査を受け、がんと診断された時から、様々な「不安」や「心配事」などが出てきます。

そして、身体的な苦痛や、精神・心理的な苦痛の他にも、療養費や生活費などの経済的な苦痛、仕事ができなくなったことによる社会的な苦痛、自分の生存が危うくなったときに生じるスピリチュアルな苦痛があります。そのような様々な苦痛に対処するために、当院には「緩和ケアチーム」があります。

「緩和ケアチーム」は、緩和ケア内科医師、緩和ケアを専門とする看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーのメンバーにより構成されています。

緩和ケア内科外来

○曜日・時間
　月・木
　14:00～15:30
○場所　７番外来
※完全予約制です

がんに伴う症状を緩和することを目的とした外来です。

受診している診療科は継続となり、担当医と連携しながら診察を行います。

心配なこと、痛みなどの苦痛について相談事がありましたら、「緩和ケアチーム」にご相談ください。

［問い合わせ］
医療支援センター
ＴＥＬ：０９４７-４４-２１００（代表）

令和３年度
下半期（10～３月）

みんなの健康講座

毎月１回、地域のみなさんを対象とした生活習慣病予防に関する健康講座を行っています！
どなたでもお気軽にご参加ください。
なお、福岡県に緊急事態宣言が発令された場合や、感染状況などを踏まえ開催が困難と判断したときは中止となる場合があります。開催の有無については、事前に電話で確認もしくは当院ホームページをご覧ください。今年度からポイントカード導入しました。開催回数の３分の２以上の出席で表彰＆特典もあります。

午前11時～12時　田川市立病院２階講堂　　申込不要･参加費無料

日　付	講座名・講師
第７回　10月12日(火)	「さあ運動はじめませんか～その前に知っておきたいこと～」 リハビリテーション技術科　理学療法士　中島史博・諏訪央
第８回　11月10日(水)	「放射線検査紹介と放射線の健康への影響について」 放射線画像センター　診療放射線技師長　渡邊　修次
第９回　12月 9日(木)	「歯と口腔の病気」 歯科・歯科口腔外科　部長　天野　裕治
第10回　1月14日(金)	「がんのお話」 看護部門　がん化学療法看護認定看護師　大野　千恵
第11回　2月14日(月)	「心臓病②～心臓弁膜症と心不全のお話」 循環器内科　副院長　桑田　孝一
第12回　3月 8日(火)	「お薬の飲み方あれこれ」 薬剤科　薬剤主査　重藤　直哉

トピックス

通院が便利に

田川市コミュニティバス「まちなか循環線」の新設により
バスでの通院が便利になりました！

令和３年10月４日から、田川市コミュニティバス「まちなか循環線」の新設により、田川市立病院への往復が便利になりました。
「まちなか循環線」は、後藤寺駅、伊田駅、田川市立病院、田川病院、市役所、メルクス、スマイルプラザなど､主要施設を巡ります。また、その他路線から後藤寺駅や伊田駅で乗り継ぐこともできます。
バリアフリーの車両（車いす利用可）も導入されます。コミュニティバスについて、詳しくは、田川市ホームページをご覧ください。

ますます便利に

マイナンバーカードが健康保険証として利用可能に！

田川市立病院では、マイナンバーカードが健康保険証として利用できます。
受付時に、患者さんがマイナンバーカードを窓口に設置しているカードリーダーに置きます。その後、顔認証または患者さんが４桁の暗証番号を入力することにより、本人確認を行います。
詳しくは、厚生労働省「マイナンバーカードの保険証利用について」をご覧ください。
※健康保険証として利用するには、事前に「健康保険証利用申込」が必要です。
スマホやパソコン（IC カードリーダーが必要）で「マイナポータル AP」ダウンロードし、登録できます。

令和３年10月１日現在

田川市立病院 外来診療担当医

新患 新しく受診される患者さん　再来 当院を受診され、予約をしている患者さん

診療科		月	火	水	木	金
循環器内科	新患	–	塚原 慧太 (産業医科大学)	瀬戸山 航史 (産業医科大学)	宮本 太郎 (産業医科大学)	井上 航之祐 (産業医科大学)
	再来		–	細川 和也 (九州大学) 瀬戸山 航史 (産業医科大学)	–	木下 聡子 (九州大学)
消化器内科	新患	岸　昌廣	土居 雅宗 (福岡大学筑紫病院)	平塚 裕晃	児嶋 宏晃	原田 久也 (福岡大学筑紫病院)
	再来	–	平塚 裕晃	児嶋 宏晃	岸　昌廣	–
腎臓内科	新患	大仲 正太郎	–	吉田 健	北村 博雅(第1・3) (九州大学) 相原 成志(第2・4・5) (九州大学)	今村 克郎
	再来	今村 克郎	大仲 正太郎	–	–	吉田 健
	腹膜透析外来・ 腎不全SDM外来(療法選択)	–	吉田 健	今村 克郎	大仲 正太郎	–
糖尿病 内分泌内科	新患	–	–	[糖尿病] 横溝 久(九州大学)	–	–
	再来	[糖尿病] 横溝　久 (九州大学)	[糖尿病] 佐藤 直市 (九州大学)	[内分泌] 井林 雄太(九州大学) 名誉院長 池田 喜彦(第4のみ)	–	[糖尿病] 新城 明仁(九州大学) 【午後診療】第1・3・4 [糖尿病] 藤原 寛子(九州大学)
呼吸器内科	新患	–	–	–	赤池 幸歌	–
	再来	–	赤池 幸歌	–	–	–
肝臓内科	新患	–	徳松 誠 (九州大学)	–	–	–
	再来	青柳 知美 (九州大学)		–	–	–
神経内科	新患(要予約)・再来	–	–	福元 尚子／田中 栄蔵 (九州大学)	–	–
緩和ケア内科	新患(要予約)・再来	【午後診療】(14時～15時30分) 小早川 晶	–	–	【午後診療】(14時～15時30分) 小早川 晶	–
総合診療科	新患	岡﨑 裕子	吉田 圭希	–	–	奥津 翔太 (福岡大学病院)
	再来	–	–	–	岡﨑 裕子	吉田 圭希
小児科	新患・再来	馬場 晴久	金政 光	馬場 晴久	馬場 晴久	金政 光
	再来	循環器外来(第2午後) 山村 健一郎 (九州大学)	新生児外来（午後） 当番医	血液・免疫(第1午後) 大賀 正一(九州大学) (第3午後) 古賀 友紀(九州大学) 腎臓外来(第4午後) 岩屋 友香(九州大学)	–	神経外来(第1・3午後) 非常勤医師(九州大学)
外　科	新患・再来	松隈 哲人 藤中 良彦	丸山 晴司 乳腺外来 鴻江 俊治	丸山 晴司 高橋 郁雄	松隈 哲人 藤中 良彦 血管外科外来(第2・4) 非常勤医師(九州大学)	高橋 郁雄 松隈 哲人
呼吸器外科	新患・再来	–	(第2・4) 非常勤医師(九州大学)	–	–	–
整形外科	新患・再来	久枝 啓史 新井 貴之 木下 英士	久枝 啓史 櫻井 立太 原田 知(九州大学)	新井 貴之 木下 英士 宮房 玲奈	久枝 啓史 新井 貴之 川口 健悟(九州大学)	久枝 啓史 櫻井 立太 宮房 玲奈
形成外科	新患・再来	柳澤 明宏	柳澤 明宏	–	柳澤 明宏	柳澤 明宏
皮膚科	新患・再来	分山 英子	分山 英子	分山 英子	分山 英子	分山 英子
泌尿器科	新患・再来	青柳 力夫 (福岡大学)	森 直樹	森 直樹	森 直樹	森 直樹 非常勤医師(福岡大学)
産婦人科	産科(妊婦検診)	–	藤田 拓司	吉田 祥子	椎名 隆次	瓜生 泰恵
	婦人科 新患 ※藤田医師の新患は ありません	–	吉田 祥子／瓜生 泰恵	椎名 隆次	瓜生 泰恵	吉田 祥子
	婦人科 再来	–	椎名 隆次	瓜生 泰恵	吉田 祥子	藤田 拓司 【午後診療】藤田 拓司 受付時間：13時30分～15時
眼　科	新患・再来	永戸 天	永戸 天 塩瀬 聡美／和田 伊織 (九州大学)	永戸 天 下川翔太郎／森 賢一郎 (九州大学)	永戸 天	永戸 天
耳鼻咽喉科	新患・再来	–	非常勤医師 (産業医科大学)	–	–	【午後診療】 非常勤医師(産業医科大学) 受付時間：13時30分～15時30分
麻酔科	新患(要予約)	–	–	–	–	–
	再来	[疼痛]小山 稔(非常勤)	–	–	–	–
歯科・歯科口腔外科	新患・再来	天野 裕治 藤田 弥千	天野 裕治 藤田 弥千	天野 裕治 藤田 弥千	天野 裕治 藤田 弥千	天野 裕治 藤田 弥千

田川市立病院 TEL：0947-44-2100
外来受付時間：午前8時30分～午前11時

※診療科によって、急に休診となる場合がありますので、気軽に電話でお問合せください。

ホームページ　Facebook　インスタグラム

〒825-8567　福岡県田川市大字糒1700番地2／ TEL 0947-44-2100 ／ FAX 0947-45-0715
企画・発行 田川市立病院 経営企画課